

中國出土資料學會

平成21年度大会（第3回例会）

日時：平成22年3月13日（土）
受付開始 12：30～
研究報告 13：00～17：00
会員総会 17：00～18：00

場所：日本女子大学新泉山館大会議室（キャンパスと道をはさんで反対側の建物の一階）
（東京都文京区目白台2-8-1）

会場へのアクセス：JR山手線「目白」下車徒歩15分
目白駅前より直通「日本女子大」行スクールバス有り
または地下鉄有楽町線「護国寺」下車徒歩10分

報告 報告者：荻野 友範（早稲田大学非常勤講師）

発表題目：『孔子詩論』の評語に関する一考察

発表概要：上海博楚簡『孔子詩論』は戦国期の詩の様相を伝える同時に、詩という明確な対象へ論評を加えることも大きな特徴のひとつである。評論という観点からいえば、詩への評価に用いられる「善」「憲」「信」「美」「敬」など、主観性の感じられる簡潔な評語のもつ意味も見逃せない。本報告では、断片的な記述のなかから、評語とそれが付された詩篇を例として取り上げ、評語の検討を通して見える評論の特徴について考察を試みたい。

報告 報告者：陳 年福（浙江師範大学教授）

発表題目：甲骨文形同形似字考釋

報告 報告者：鈴木 敦（茨城大学教授）

発表題目：先秦文字の符号化に関する諸要件

発表概要：現在、ISO/IEC10646の拡張作業の一環として、ISO/IECの下部組織たるOld Hanziにおいて甲骨文の符号化作業が進められている。今報告では、まず当該作業の実情を紹介する。この種の作業のもつ危うさは、過去の漢字コード化でも経験したが、この方式が今後先秦文字一般の符号化作業に踏襲される危険性が極めて高いことをお知らせし、先秦文字をご専門とされている方々が現状を正確に把握し、できればOld Hanziに先んじて先秦文字の符号化方法について検討を始めて下さるよう、呼びかけをさせて戴きたい。

参加費(資料代)500円

非会員の来聴を歓迎します